

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果について

三原市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査期日 令和6年4月18日（木）

(2) 調査対象 公立小学校第6学年、中学校第3学年

(3) 調査内容

ア 児童生徒に対する調査

(ア) 教科学力の調査（「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に構成）

【小学校】国語、算数

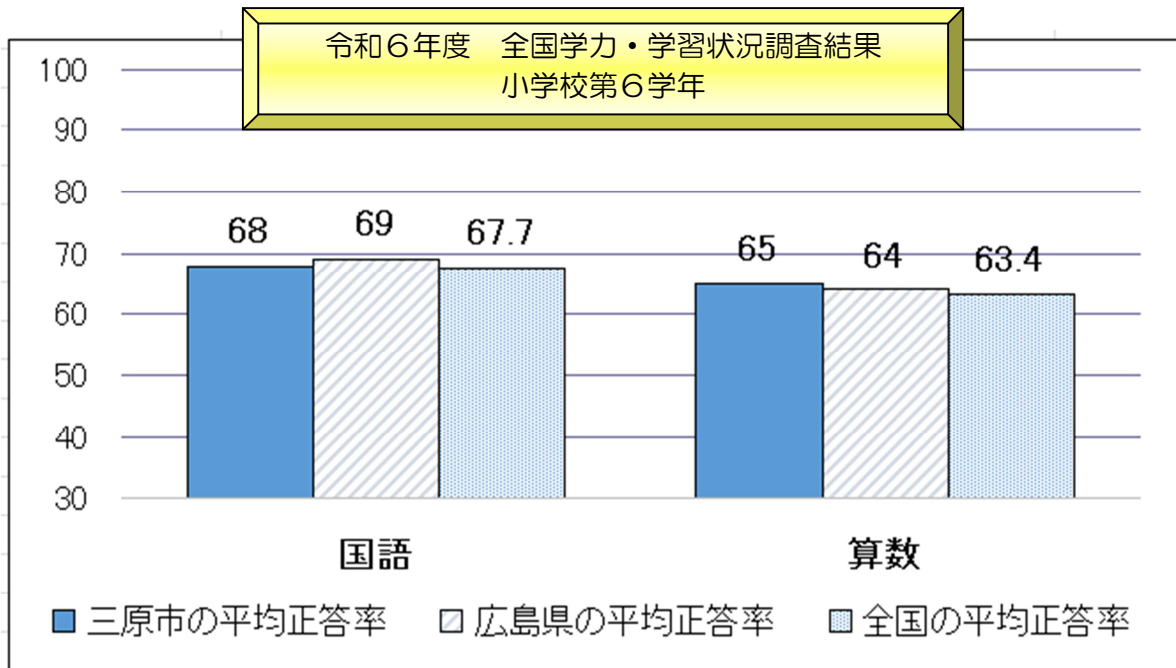
【中学校】国語、数学

(イ) 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

イ 学校に対する調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

2 三原市の調査結果



【国語】

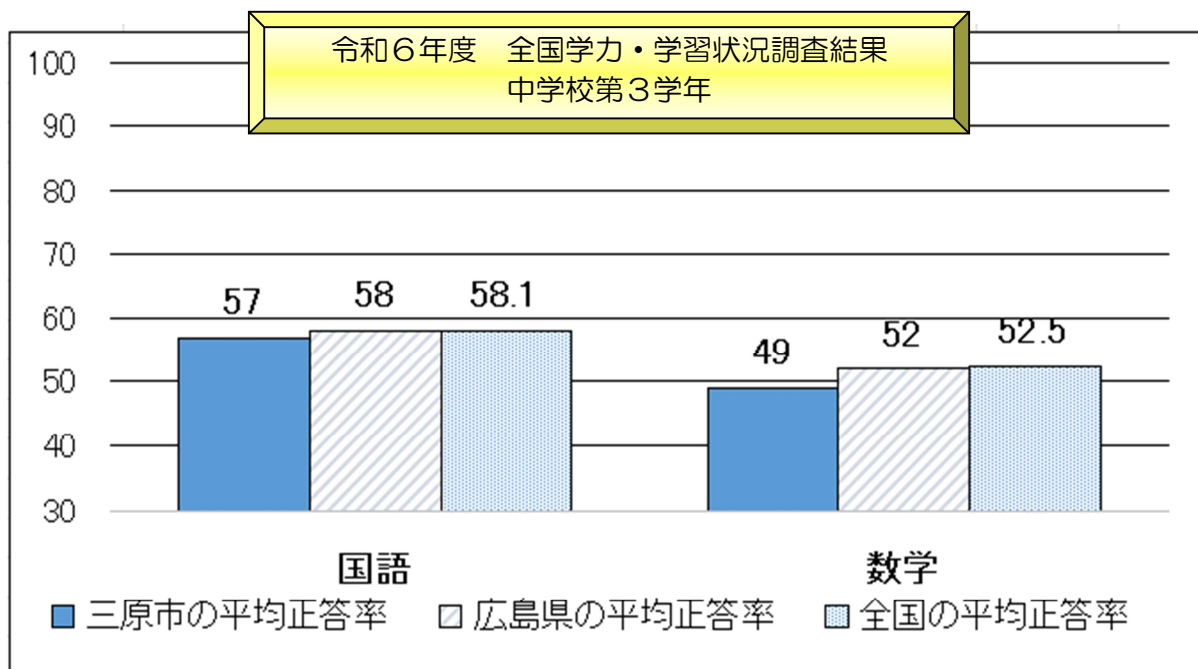
三原市の平均正答率は、全国平均より0.3%高く、県平均より1%低い。昨年度課題であった記述式問題について、2問中1問は県平均を1.5%下回っているが、県平均との差は、昨年度より縮まっている。また、記述式問題における無答率について、どちらの問題においても県の数値を下回っており、改善が見られる。一方、「読むこと」については、県平均を2.4%下回っており、各領域の中でも課題が大きい。

改善策として、次の2点を意識して授業改善を進める。1点目は、登場人物の人物像を明確にしたり、根拠となる描写を明らかにしたりする学習を設定すること。具体的には、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結びつけ、それらを基に性格や考え方などを総合的に判断する場を設定する。また、登場人物の心情が暗示的に表現されている場面を取り上げて、何を伝えようとしているのかを考えさせることにも取り組ませる。2点目は、話し言葉と書き言葉との違いを実感できる場面を授業で設定すること。具体的には、自分の伝えたい内容がなぜ正しく通じないのか、実際の会話を録画した動画や音声的文章に起こした資料を用いて考えさせる場面を設定して指導する。

【算数】

三原市の平均正答率は、全国平均より1.6%、県平均より1%高い。全ての領域において、県平均より0.3%~1.2%上回っている。特に、昨年度、最も課題が大きかった「変化と関係」については、今年度、県平均を1.2%上回り、改善が見られた。また、4問の記述式問題において、3問が1.6%~4.9%上回っており、県平均を下回っている問題についても、昨年度と比較するとその差は縮まっている。

改善策として、以下の3点を特に意識して授業改善を進める。1点目は、教科書の問題文を基に、自分で式や言葉を用いて記述した後、お互いの記述について説明し合う活動等を設定し全体共有すること。その際、全体共有した望ましい記述をもとに、再度自分で記述したり、ペアで話し合ったりして、全員が求め方を理解し説明できるようにする。2つ目は、問題を解決するために必要な情報を主体的に見いだすことができるようにすること。具体的には、導入で既習との違いを問うたり、友達の困り感を共有したりする。終末の適用問題において、導入問題で見いだした見方・考え方を使って解決できるか自分で確かめる時間を設定する。3つ目は、計算問題をはじめ、児童がどこでつまづいているのかを教師が把握し、児童自身もなぜ間違えたのか理解させること。ドリル学習の時間等で、つまづきの多い計算問題に取り組みせ、目標時間の設定、間違えた問題の解き直し、途中式を書くことなどを徹底して指導していく。



【国語】

三原市の平均正答率は、全国平均より 1.1%、県平均より 1%低い。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」については、県平均と同等、あるいは 1%～1.3%上回っている。一方、「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「情報の扱い方に関する事項」については、県平均より 2.6%～3.3%下回っており、昨年度と比較しても県平均との差が大きくなっている。

改善策として、次の2点を意識して授業改善を進める。1点目は、具体的な表現と結びつけながら、表現の技法について考える場面を授業で設定すること。具体的には、「擬人法」「比喩」「倒置」「体言止め」などが、どのような特徴をもつ表現の技法なのかを名称と結びつけて確実に定着を図る。その上で、例えば、同じ表現の技法が使われている作品を比較し、効果の共通点や相違点を検討するなど、具体的な表現と結びつけながら個々の表現の技法についての理解を深める場面を設定する。2点目は、目的や相手を明確にして、文章の内容を要約して伝える場面を設定すること。具体的には、文章を目的に応じて必要な情報を適切に取り出してまとめられているか、自分の言葉を用いてまとめた部分と文章の内容とに隔たりがないかなどを確認しながら、意識して要約することができるように指導する。また、要約文を生徒同士で読み比べるなど、必要な情報は何かを確認しながら適切さや正確さを意識して要約する場面を設定する。

【数学】

三原市の平均正答率は、全国平均より 3.5%、県平均より 3%低い。「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の全て領域において県平均を下回っている。特に「図形」については、県平均から 3.7%下回っており、昨年度に引き続き、4つの領域の中で最も課題が大きい。基礎的・基本的な知識及び技能が十分身につけていないこと、記述式で事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

改善策として、次の3点を意識して授業改善を進める。1点目は、基礎的・基本的な知識及び技能を定着させること。具体的には、小テストや単元テスト等の生徒の定着状況を見取りを計画的に繰り返し実施し、間違えた問題は再テストを実施し確実に定着させる。また、単元の始めに予備テストや学び直しを行い、必要な知識を定着させ単元に入る。2点目は、見方・考え方について考えを表現する場面を授業で設定すること。具体的には、身の回りにある事象をもとにした問題を設定し、その理由を考察し表現する活動を設定する。また、本時で学習した内容や、身につけた見方・考え方を振り返り等で自分の言葉でまとめさせる。3点目は、図形やデータの性質を論理的に考察する活動を充実させること。ある事柄が成り立つことを考察する場面では、ステップチャート等で構想を立て、それに基づいて、仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導する。また、他者の説明を聞いて、どのように考えたかをお互いに説明する活動を設定する。